

令和4年度
第4回 総合教育会議 説明資料

地域連携 と 通級指導 を軸とした

すべての生徒に 「居場所」 のある学校づくり



滋賀県立 愛知 高等学校
滋賀県立愛知高等養護学校
校長 北川 幹 芳

学校改革(特色化)の取組

少人数・習熟度別授業の展開

1、2年生は、3クラス(定員120名)を4クラスに展開して少人数化
数学や英語で習熟度別授業を取り入れ、生徒一人ひとりに目が届く指導

学校の特色化・魅力化の推進

音楽コース、体育コースを設置
R3年度～「日本語指導」開始

H30年度～「通級指導」開始
積極的な情報発信

インクルーシブ・スクールとしての地位確立

H25年4月 滋賀県立愛知高等養護学校 開校(高校と併設)
入学式、卒業式、文化祭、体育祭等は合同で実施
生徒会や一部の部活動も合同で活動
共同学習や1年生百人一首大会の実施



生活指導の拡充

あいさつ運動の展開 遅刻防止、校内でのピアス禁止
R元年度～モバイルボックス(授業前に電源を切ってスマホを預ける箱)を設置

愛知郡内唯一の県立高校 地域との強い結びつき
卒業生を中心に、地域を巻き込んでの学校支援活動

校是「地域共学」

- ☞ **プレジョブシップ** (就業体験)
- ☞ 愛荘町と連携した「**主権者教育**」
- ☞ 「**学校運営協議会**」による学校経営への助言
- ☞ 音楽コースの**地域行事への参加**



成果

様々な地域連携の取組

生徒の自己肯定感向上

積極的な情報発信

地域の学校に対する評価向上

課題

1. 担当教員の負担
2. 資金面
3. 生徒支援とのバランス



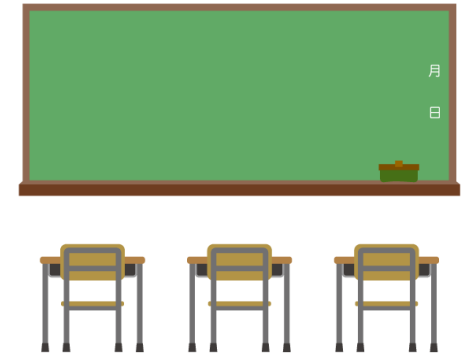
週1回、放課後の個別指導（SST等を中心に）
14項目の授業のユニバーサルデザイン化
すべての生徒に学びやすい環境づくり



成果

通級指導を継続して受けることで、少しずつコミュニケーションをとることができるようになり、クラスになじむこともできて、**自分らしく学校生活を送れる**ようになった。さらに、自分の進路希望をかなえた生徒も出てきている。

課題



原則、個別指導の形態

指導できる生徒数に限り

教師が必要と判断

生徒や保護者の同意が必要

発達課題がある？ 日本語能力が不十分？ 判断困難

外国籍生徒の入学増

日本語指導の必要性高まる

- 地域に根ざし、地域と支え合う学校
- すべての生徒の
学力の向上と生涯学び続ける力の育成
- 地域に根付き、地域の発展に貢献する人材の育成
 - ・卒業生の7～8割が地元企業へ就職
 - ・進学希望者も多くが県内の学校を選択